

会☆員☆登☆場

賛助会員 (株)二条丸八 田中 茂 会長

昨秋に開かれた「日本きもの学会」年次大会を機に、賛助会員登録された「二条丸八」は婚禮衣装卸の老舗企業。この度の「沖縄伝統染織研修」にも、社内デザイナーを派遣、産学協同の企業活動強化を図っている。田中会長に学会活動と企業活動の接点など聞いてみた。

●学会入会のいきさつと、今回の研修旅行参加の意図は「学会に入会してわかったのですが、きもの学会と銘打つわりに、きもの業界の方の参加が意外に少ないのですね。当社が入会するきっかけとなったのは、ラポーリエ(富山県氷見市)さんとの関係からで、京都に縫製工場



「学会に入会してわかったのですが、きもの学会と銘打つわりに、きもの業界の方の参加が意外に少ないのですね。当社が入会するきっかけとなったのは、ラポーリエ(富山県氷見市)さんとの関係からで、京都に縫製工場

いけない、そのためには、異業種企業や学術研究の環境が集った中で仕事をしていくことが夢の実現の手助けになる、と考えてのことでした。今もその気持ちに変わりはありませんが、新規事業を立ち上げるのは難しく、未だ志半ば、といったところにとどまっています」

緊急特集

きもの染織のルーツを訪ねる 「沖縄伝統染織研修」の旅へ

一月二八～三〇日、日本きもの学会主催で四五名が参加

「きもの学講座」がスタートして、昨年で早くも八年目になります。丹後産地への実地研修が実現し、翌平成二〇年には、「教室の外へ出て染織に関わる研修旅行をしたい」という声があがりました。平



た実地研修旅行を積み上げる中で、自然発生的に湧き出たのが「伝統染織の宝庫である沖縄への研修」の要望でした。「日本きもの学会が主催する以上、単なる沖縄ツアーに終わることなく、染織の原点を沖縄に探る、実のあるものにした」というのが暗黙の了解事項でした。早速、企画作業に

調を崩され、緊急検査入院されることになったのです。それでも、参加者は当初想定の人数を超え、本学会の波多野会長・高橋理事を始め、総勢四五名に達する広がりを見せました。長野県・岐阜県・愛知

◎見学先

城間紅型研究所・那覇伝統織物事業協同組合 首里織工芸館・読谷山花織事業協同組合 伝統工芸センター・読谷村立歴史民俗資料館・喜如嘉芭蕉布事業協同組合 大宜村立芭蕉布会館・琉球村(有)大城広四郎織物工房・南風原文化センター・沖縄県立博物館

◎観光先

ひめゆりの塔 ひめゆり平和記念資料館・首里城・守礼門・琉球料理と舞踊・沖縄美ら海水族館・DFSギャラリー

新人会員ご紹介

- 平成二二年二月入会
1 賛助会員 株式会社ラポーリエ (富山県氷見市)
2 賛助会員 株式会社二条丸八 (京都府木津川市)
3 正会員 徳地昭治 (京都府京都市)
4 正会員 木村信子 (滋賀県野洲市)
5 準会員 平戸美和子 (大阪府東大阪市)
6 準会員 宮内裕子 (兵庫県神戸市)
◎平成二二年一月入会
1 正会員 井上千絵 (大阪府東大阪市)
2 正会員 小笠原不三子 (三重県四日市市)
3 正会員 小林道子 (三重県四日市市)
4 正会員 関口春美 (神奈川県横浜市)
5 正会員 田中志津子 (三重県津市)
6 正会員 藤井由美子 (兵庫県宝塚市)
7 正会員 廣瀬幸子 (大阪府枚方市)
8 正会員 古川 顯 (三重県四日市市)
9 正会員 光吉順子 (大阪府大阪市)
10 準会員 平松一恵 (東京都中野区)
11 準会員 奥岡由紀子 (三重県三重郡)
◎準会員から正会員に変更
1 前田千賀子

▼事務局だより

今回の「沖縄伝統染織研修旅行」はこの人なくしては実現しないものでした。当学会常任理事の富山弘基先生です。先生には、第一回の「きもの学」から最新まで、日本の伝統染織等について講義をしていただいた。中でも「沖縄の染織」を語られる時は、生き生きと目が輝き、

出発の日には想定外の雨で、きもの姿の参加者の方には申し訳ないものでしたが、こればかりはどうしようもありません。先行きが心配されましたが、そんな心配も吹き飛ばしてくださったのが、参加者の皆様の沖縄染織に対する旺盛な好奇心・探究心でした。皆さん、沖縄染織の知識は深く、良く勉強されていることが伺え、また、一人で参加された方も「きもの」を通して、たちまち皆さんと打ち解けられて、バスも皆さんと楽しく解かれて、輪が広がっていく姿にナビゲーター役もほっと一安心したものでした。

三日間の限られた日程の「沖縄伝統染織研修」では、一刻も惜しんで精力的に染織の現場を訪ねた総数四五名の一行。めまぐるしく展開された研修旅行の「現場」の模様をまとめました。(中江正子)

1. ひめゆりの塔・ひめゆり平和記念資料館

参加者の中から「沖縄伝統染織研修」に参加したいが行くのだらたら「ひめゆりの塔」に詣でたいとの、たつての願いで見学することに。資料館には、野戦病院の看護婦として従軍した、沖縄師範学校や県立第一高女などの女子生徒の人たちの作文が展示している部屋があり、文面の切なさに、思わず涙、涙源……。無垢の学生達を巻き込んだ戦争の悲惨さを痛感するばかり。

2. 城間紅型研究所

沖縄の伝統染織品で唯一の染めの「琉球紅型」。きもの文化検定公式教本Ⅱ「きものたのしみ」に、美しいカラー写真で紹介されている「琉球紅型」の現場は、一度

は見学をしたかったと楽しみにされていた方が多かった。雨が降りだし、足元の悪い中「城間紅型研究所」を二班に分けて見学。伝統と現代をうまくミックスさせた「琉球紅型」の染色現場では、若い人が生き生きと作業をされている姿が印象的。「琉球紅型」の工程・道具の解説や職人さん達の色挿し・隈取り作業の見学は、よくある光景ですが、今回の研修旅行が一味違うのは、参加者の質問の「鋭さ・多彩さ」。さすが、きもの博学者の集まり、でした。

3. 那覇伝統織物事業協同組合首里織工芸館

首里織工芸館近くの大通にバスが停車したものの、首里織工芸館が見当たらない。大急ぎで、事務所に電話をして迎えにきていただいた。細く急な坂を下りていくと首

物を見る事になりそうです。「若い方が多い、特に男子が多い、説明をした若い男子。紅型の工程は伝統を引き継ぐ事、安易な工夫をせず、コストにとられず、手作りの良さを思い知らされた」

「教本ではピンとこなかったことが、実際に見学できたことよって、よく理解できました。福木などの染料となる材料も手にとって見ることでが良かったです。工房の方のハケの使い方など、教本の説明と一致「なるほど」と思いました」

4. 首里城・守礼門

約五七〇年前(一四二九)に成立し、四五〇年間(一八七九)にわたり、日本の南西諸島に存在した琉球王国。雨の降りしきる中、バスガイドさんの案内で一目散

られていた琉球王朝時代の染織の調査研究を行い、その報告にありました。この報告はビデオにまとめられ、沖縄の染織の歴史を知る上で重要な調査となり、また首里花倉織の復元に繋がった、と言います。沖縄の歴史と首里花倉織への情熱に感動しきり、でした。

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「首里織は王家の衣装を中心に発達したこと。織り方は大変むずかしかった。理解するのが大変です」
「ビデオわかりやすかったです。時間がなく、織っておられるところがじっくり見られず残念。首里花倉織の素晴らしさが勉強出来て良かったです」

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「期待していた織物です。花織のきものは、風合いの良さ、又、糸の浮上り、糸の鮮やかさ、説明書の中に素材の解説なく、経(たて)が紡糸か生糸か、又糸についても聞く事が出来ず、残念」
「実演している方が、こちらの質問する度に、実際に織って見せて下さり『百問は一見にしかず』を体感しました。見学時間がもう少し欲しかったです」

「花織の美しさを現地で見ることが出来て本当に嬉しかったです。伝統工芸品がそうたやすく手に入るものではありませんが、手仕事を楽しんで

4. 首里城・守礼門

「首里織の歴史から種類まで詳しく説明があり、歴史とリンクした織技法や色・柄を細かく見せて頂いたのが解り易かったです。ただ、人数が多い為に中々近くで見られず、説明を聞いた後に織物を見る形になってしまった事は、やや残念に思います」

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「わざわざ所有しているきもの(芭蕉布・宮古上布等)が展示してあり、特に綿の花織が印象深かったです。京都の方が寄贈されたものだから、少し嬉しかったです」

「胸いっぱいになりながら見学させていただきました。ビデオも大変良かったです。帰宅してから話しを伝えたいと思いました」

8. 南風原町立南風原文化センター

9. 沖縄県立博物館

沖縄で新都心にある「おもろまち」。その新都心にある沖縄県立博物館を見学。広い中央部分のスペースでは歴史を追った多種の展示があり、周りのブースでは、自然史、考古学、美術工芸、歴史、民族などにかかわる興味深い展示がされています。参加者の目を引いたのが、琉装の男女のマネキン。首里城でも案内役の、琉装の男性が前で結ぶ帯の結び方。参加者が、帯の結び方を係りの方に尋ねるところ、実演をしてあげるところ。急遽、牛田さんご夫婦がモデルになり、着付け指導が始まった。



2. 城間紅型研究所



3. 那覇伝統織物事業協同組合首里織工芸館



1. ひめゆりの塔



3. 那覇伝統織物事業協同組合首里織工芸館



8. 南風原町立南風原文化センター

いる自分にとっては、五〇センチやメートルの布でもあればと思います」

【参考】

今回、富山先生が病気の為に参加されなかったが、その著作「沖縄の伝統染織」(昭和四十六年、徳間書店発行)から「沖縄本島」の部分を印刷していただいていた。この本は、同氏により、同年に「日本の伝統染織」が発刊されていましたが、その中に、沖縄染織が触れられていなくて、これでは完全を欠くと大野力氏と共に、四月月に亘って沖縄本土・沖縄諸島を取材されて書かれた力作です。

伝統工芸総合センターへ行くと池原理事長が、「沖縄の伝統染織」を手に富山先生に会えるのを楽しみに待っておられました。富山先生が来られなかった旨を告げるととても残念がっておられました。と言つても「沖縄の伝統染織」の本の中に、三九年前の富山先生の取材に、池原理事長が機織り姿と名前が掲載されており、富山先生との再会を楽しみにし

ていたとの事。織物が取り持つ邂逅のロマンは、持越しとなりました。

6. 喜如嘉芭蕉布事業協同組合 宜味村立芭蕉布会館

遠く離れた喜如嘉でバスを降りて、芭蕉布を見ながら宜味村立芭蕉布会館へ。その昔、周辺の家の庭や畑に芭蕉の木を植え、主婦や娘たちが自家用の布を織って、自らが着た芭蕉布。その芭蕉布の製作工程は糸芭蕉の繊維から柔らかい部分だけを取り出し、糸作りをする手間際にかかる糸の遠くなる工程でした。芭蕉布がきものや帯になるとはとても想像もつきませんでした。先人達の偉大さと、沖縄の風土に合った「芭蕉布」が人々に親しまれた理由がわかったような気がしました。

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「本物の糸芭蕉を見ることでできて、工程がよくわかり

ました。若い後継者の説明は良かったですね。今は高級品ですが、昔は、村人が着るために織ったのだらうと思えます」

「芭蕉布の特徴から、その大変な工程まで、とても解かり易く解説してもらったので、良く解りました。更に織物の糸から原料となる芭蕉を実際に見ながら、その植物としての特徴も細かく教えて頂き、更には染料まで周囲に生えている木々を見ながら教えて頂きたいので、よく解り易く勉強になりました」

「今回の研修の中で一番楽しみにしていた所でした。あの土地と環境の中で地道に続けて来られた伝統の織りの技・染め・糸芭蕉の積み方と何をとつても、続ける事の重要性を感じました。芭蕉布の着物を羽織れる身分ではありませんが、伝統を守っておられる方々の静かな意気込みが感じられました。事と自分自身の生き方を振り返るチャンスと今後の方向性に力を得た様な思

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「順を追って丁寧に説明頂けた事と、実際に緋の模様を織り出している所を見せて頂

7. (有)大城広四郎織物工房

琉球緋の織られている南風原町。その(有)大城広四郎織物工房を見学しました。二階の工房では、若い女性が図案を見ながら経糸を箆に通し、巻き取りを。この作業は琉球緋ならではのものです。初めて目にする参加者は、食い入るように見学されていました。機械も織り子さんが丁寧に説明していただき、その手先の先から、琉球緋独特のきれいな柄が浮かび上がってきます。一階では、緋の種類ごとに経糸をそろえ、模様部分を一カ所ずつ手で括つていく「手結」を男性がしています。簡単そうに見えて大変力と熟練がいる仕事で、沖縄の伝統染織「琉球緋」の魅力の奥深さに感動。

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「順を追って丁寧に説明頂けた事と、実際に緋の模様を織り出している所を見せて頂

に、守礼門をくぐり首里城へ。それにしても、案内係りの男性の琉装が、首里城とぴったりマッチして琉球王国時代に戻ったようでした。

5. 読谷山花織事業組合 伝統工芸総合センター

池原竹子理事長、又吉弘子副理事長に出迎えていただき、読谷山花織のルーツや花織の技法、花綜統で模様を浮かせる緯綜統花織・経綜統花織・両面統花・手花織について解説いただき、実演を見学しました。珍しい経緯綜統花織の工程について、目を輝かせてじっくり見学。質問も飛び交い、いつまでも興味が尽きない様子でした。

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「期待していた織物です。花織のきものは、風合いの良さ、又、糸の浮上り、糸の鮮やかさ、説明書の中に素材の解説なく、経(たて)が紡糸か生糸か、又糸についても聞く事が出来ず、残念」
「実演している方が、こちらの質問する度に、実際に織って見せて下さり『百問は一見にしかず』を体感しました。見学時間がもう少し欲しかったです」

「花織の美しさを現地で見ることが出来て本当に嬉しかったです。伝統工芸品がそうたやすく手に入るものではありませんが、手仕事を楽しんで

した「琉球緋」の理解が深まりました。

アンケートより抜粋

満足度 (満点五★) ★★★★★

「印象・感想」
「わざわざ所有しているきもの(芭蕉布・宮古上布等)が展示してあり、特に綿の花織が印象深かったです。京都の方が寄贈されたものだから、少し嬉しかったです」

「胸いっぱいになりながら見学させていただきました。ビデオも大変良かったです。帰宅してから話しを伝えたいと思いました」

9. 沖縄県立博物館

10. 首里城

沖縄で新都心にある「おもろまち」。その新都心にある沖縄県立博物館を見学。広い中央部分のスペースでは歴史を追った多種の展示があり、周りのブースでは、自然史、考古学、美術工芸、歴史、民族などにかかわる興味深い展示がされています。参加者の目を引いたのが、琉装の男女のマネキン。首里城でも案内役の、琉装の男性が前で結ぶ帯の結び方。参加者が、帯の結び方を係りの方に尋ねるところ、実演をしてあげるところ。急遽、牛田さんご夫婦がモデルになり、着付け指導が始まった。

11. 首里城

首里城で新都心にある「おもろまち」。その新都心にある沖縄県立博物館を見学。広い中央部分のスペースでは歴史を追った多種の展示があり、周りのブースでは、自然史、考古学、美術工芸、歴史、民族などにかかわる興味深い展示がされています。参加者の目を引いたのが、琉装の男女のマネキン。首里城でも案内役の、琉装の男性が前で結ぶ帯の結び方。参加者が、帯の結び方を係りの方に尋ねるところ、実演をしてあげるところ。急遽、牛田さんご夫婦がモデルになり、着付け指導が始まった。

12. 首里城

首里城で新都心にある「おもろまち」。その新都心にある沖縄県立博物館を見学。広い中央部分のスペースでは歴史を追った多種の展示があり、周りのブースでは、自然史、考古学、美術工芸、歴史、民族などにかかわる興味深い展示がされています。参加者の目を引いたのが、琉装の男女のマネキン。首里城でも案内役の、琉装の男性が前で結ぶ帯の結び方。参加者が、帯の結び方を係りの方に尋ねるところ、実演をしてあげるところ。急遽、牛田さんご夫婦がモデルになり、着付け指導が始まった。

13. 首里城

首里城で新都心にある「おもろまち」。その新都心にある沖縄県立博物館を見学。広い中央部分のスペースでは歴史を追った多種の展示があり、周りのブースでは、自然史、考古学、美術工芸、歴史、民族などにかかわる興味深い展示がされています。参加者の目を引いたのが、琉装の男女のマネキン。首里城でも案内役の、琉装の男性が前で結ぶ帯の結び方。参加者が、帯の結び方を係りの方に尋ねるところ、実演をしてあげるところ。急遽、牛田さんご夫婦がモデルになり、着付け指導が始まった。